

平成25年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成25年10月21日(月) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 小幡 銀伸 ((公財) 豊田市体育協会 会長) 《会 長》
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長) 《副会長》
岩月 富士雄 ((一社) 豊田市身障協会 理事)
大橋 則保 (豊田市小中学校長会 庶務)
小栗 真佐人 (豊田市区長会 理事)
鈴木 秀次 (豊田市健康づくり協議会 会長)
平林 栄子 (スポーツ指導員 代表)
藤原 睦行 (トヨタ自動車(株) 人事部)

【欠席者】 (委 員) 北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
湯浅 景元 (中京大学スポーツ科学部 教授)

【事務局】 笠井 保弘 (教育長) 倉橋 剛 (教育行政部長)
塚本 伸宏 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 田中 真美子 (スポーツ課主査)
松下 誠 (スポーツ課主査) 嘉村 麻未 (スポーツ課書記)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付
2 教育委員会あいさつ
3 委員紹介
4 会長・副会長選出
5 会長あいさつ
6 議題
(1) 第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗管理について
ア 掲載事業の平成24年度評価の概要(資料1)
イ 元気っ子プログラムの進捗状況(資料2)
ウ 平成24年度BC評価事業の平成25年度進捗状況(資料3)
(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組について
7 その他(報告)

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）「第２次豊田市生涯スポーツプランの進捗管理について」

事務局：（資料に基づき説明（資料１～３））

ア「掲載事業の平成２４年度評価の概要について」

（質問、意見なし）

イ「元気っ子プログラムの進捗状況について」

委員：教員、放課後クラブ指導員の他、指導者の対象はどのような人か。

事務局：スポーツクラブ、スポーツ少年団の指導者、保育師も対象としている。

委員：学校への普及は分かりやすいが、地域への普及はどのようにおこなうか。

事務局：スポーツ推進委員のコーディネーショントレーニング部会で地域への普及を図るとともに、保育師でこども園への普及も図っている。

委員：指導者不足が大きな問題である。年齢別、体力別等、広い分野に対応できるよう、勉強いただき、指導力の向上を図っていただきたい。また、子どもと遊んでもよいという方、高齢者のお手伝いをしたいという方等、市内から広く指導員を募集するようお願いしたい。

委員：コーディネーショントレーニングは学校では広がりがある。地域でも広がりが出るよう、やりっ放しにせず、回数を重ねる等、継続性を持たせることが大切である。

ウ「平成２４年度ＢＣ評価事業の平成２５年度進捗状況について」

委員：遅れているものが５つほどあるが、その理由は何か。

事務局：各団体で様々な団体との会議、会合をおこなっているが、報告会に留まっているものもある。もっと連携していける内容にしたいが、なかなか前進しない現状である。

委員：生涯スポーツプランについて、区長、地域でも知らない人が多い。市民に向けてのプランの啓発をさらにすべき。

会長：生涯スポーツのまちをさらに市民に理解してもらえるよう、詳細な内容でなくてもよいので、もっと大まかなPRをすべき。特にメディアを利用したPRは効果的であり、地元ケーブルテレビのさらなる活用が重要である。審議会の開催だけでは足りない。

■議題（２）「東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組について」

事務局：９月に東京開催が決定し、日本中が盛り上がっている。これを絶好の機会ととらえ、どのような取組ができるか検討しているが、委員の皆様からも専門的な見地からご意見、アドバイスをいただきたい。

会長：委員の皆様全員からご意見をうかがいます。

委員：スポーツ人口の底辺を広げたい。特に、子どものスポーツへの携わり方について、「頑張ってみよう」と思わせるような活動が必要。子どもたちにアスリートのお話を聞かせることは効果的と考える。子どもたちを良い方向へ導きたい。

委員：ものづくりを通じて地域・社会への貢献を図っている。スポーツを通じても地域、社会貢献を図るべく、様々なスポーツに力を注いでいる。オリンピック、パラリンピックに向けては、産学プラス行政で取り組んでいってはどうか。

委員：すべての年代を対象とすると難しいが、一つずつ消化していかないといけない。地元ケーブルテレビでこども園の番組があるが、放送することで意識が高まるため、小学

校低学年でも番組で放送することで頑張ると思う。子どもたちとスポーツをテレビ番組で取り上げることは効果的である。体育協会は種目別になっており、どの部分を動かせばよいか、市から具体的に指導をお願いしたい。体育協会、大学等の人材を活かした指導者の育成が必要。

委員：健康づくりについて、地域保健課と連携し市全体として取り組んではどうか。横断的な組織で対応することで、意識は高まるはず。オリンピック選手を応援するプロジェクトの立ち上げ等はいかがか。

委員：子どもたちにとっては大きなインパクトがある。障がい児水泳教室でも「私たちでも出られるかな」と反応が出てきている。しかし、障がい者を受け入れてくれる施設が少ない。このようなビッグイベントの時にもっと周囲が入り込んできてくれればよいのだが。市役所の中では障がい者のスポーツに関する担当はなく、障がい児は自分の基礎体力を知る術が無い。

委員：2020年のオリンピックは現在の中高生が選手を中心となり、大きな励みになっている。部活動で大学や企業のトップアスリートとの連携が図れないか。学校だけの力では全国レベルへのスキルアップは難しい。やるからには、全国レベル、さらにはオリンピックを目標にすべき。

委員：自治区の運動会等への人の派遣、自治区でのスポーツに関する補助制度があるとよい。また、アスリート教室等を開催し、スポーツの振興を。

会長：ロンドンオリンピックには豊田市に關係する選手が多く出場している。子どもに夢を与えるような内容を市でまとめ、市議会でも議論していただき、次回の審議会までに方向性を示して欲しい。

委員：区長やスポーツ推進委員を中心に「オリンピック」にちなんだ、参加しやすい地域イベントを計画してみてはどうか。

会長：本日の意見を参考に市側で検討してもらい、次回中間報告をお願いする。